

# 知らない！と危険なコンタクトレンズトラブル

## 美女医が答えるリレーコラム



現在、コンタクトレンズ（以下コンタクト）装用者数は約1800万人と言われています。コンタクトは、私たちにとって最も身近な医療機器ではないでしょうか。

近視や遠視などの屈折異常の程度が強い方の中には、眼鏡のわずらわしさを感じている人も多いと思います。

まず、そんな方たちにとってコンタクトは嬉しいスポーツの時も装用可能で、外的にも裸眼時と変わりなく、何より使い心地が良いという大変画期的で便利なものに違いありません。

しかしながら誤解や間違った使い方が原因で、トラブルが増加していることも事実。コンタクト障害の中

## 筋トレ眼科医・久保田明子

にはどんなものがあるか、一部紹介いたします。

「巨大乳頭結膜炎」は、レンズの汚れに対するアレルギー反応です。「点状表層角膜症」はドライアイ、レンズの汚れ、ケア用品など原因はさまざまで、角膜表面の細胞が脱落している状態です。「角膜浸潤・角膜潰瘍」は点状表層角膜症よりも角膜表面の細胞が広く深く欠損した状態で、細菌によるものなどは失明する恐れがあり、コンタクト障害の中でも最も深刻な状態。「角膜内皮障害」は角膜の透明性の維持に関わっている角膜の最内側の細胞の障害で、ソフトコンタクトをつけ

たまま寝てしまう方に多く見られます。「角膜血管新生」は角膜が酸素不足になると、酸素を補おうと本来血管のない角膜に結膜から血管が侵入。やはり連続装用している方に見られます。

多くの方が眼科で処方されたコンタクトを正しい使用方法で使っていると思います。しかし中には1日使い切りタイプを1カ月間連続で装用したり毎日消毒して長期間使用、水道水で洗浄・保管して使用、保存容器を何年も交換せずに使用するなど、驚きの使用方法の方も！

便利で快適なコンタクトですが、角膜に直接つける異物であることに違いはありません。深刻なトラブルを回避す

たまま寝てしまう方に多く見られます。「角膜血管新生」は角膜が酸素不足になると、酸素を補おうと本来血管のない角膜に結膜から血管が侵入。やはり連続装用している方に見られます。

多くの方が眼科で処方されたコンタクトを正しい使用方法で使っていると思います。しかし中には1日使い切りタイプを1カ月間連続で装用したり毎日消毒して長期間使用、水道水で洗浄・保管して使用、保存容器を何年も交換せずに使用するなど、驚きの使用方法の方も！

便利で快適なコンタクトですが、角膜に直接つける異物であることに違いはありません。深刻なトラブルを回避す

久保田明子（くぼた・あきこ）  
金沢医科大学。眼科専門医。医学博士。大病院や都内クリニックを経て、06年から「アイクリニック自由が丘」（目黒区）院長。社会貢献を目指す「En女医会」に所属。パーソナルトレーナーの夫とは趣味のサーフィンを通じて出会う。趣味はボディートレーニング。娘と息子を持つ「ママ美女医」。